

令和3年度 法奥小学校3年生「ブナの森たんけん学習」

8月31日（火）、十和田市立法奥小学校3年生6名は自分たちのふるさとにある「ブナの森」で、「ブナの森たんけん学習」を行いました。

この学習は、法奥小学校が取り組んでいる総合的な学習の時間「みどりの学習」の一環として、実際に「ブナの森」に行き、森林の多面的な役割やそこで生きている生物の大切さなどを学ぶ活動として毎年実施しています。

当日は、好天に恵まれ、時折吹く風が気持ちよく、絶好の学習日和となりました。

子供たちと先生は、バスから降車するとすぐに、入口にある「熊に注意」の看板に驚き、歩道を列になって歩きながら、葉の形（トチノキなど）を観察、葉（カツラやクロモジ）のにおいをかいでみたり、樹皮を触って触感の違いを確かめたり、木の実（サルナシやブナ）を拾ったりしていました。

その後、森林に関するクイズや用意した土にペットボトルに入った水を流し、流れ出る速さや水の色など、森林の役割を学習しました。また、幹回りと同じロープを全員で広げてブナの大きさを体験し、準備してきた「ブナの森」についての質問への答えをメモ帳に書き込んでいました。

この学習をきっかけに、子供たちが森林に対して親しみを感じ、森の役割について理解が深まり、森林がより身近なものになってくれればと思います。



「今日は、よろしくお願ひします」



「森林の役割を説明」



「みんなで記念撮影」



「幹回りと同じロープで大きさを体験」